



# 都留興讓館高等学校 PTA 新聞

都留興讓館高等学校  
山梨県都留市上谷 5-7-1  
TEL 0554-43-2101  
FAX 0554-43-5056  
印刷：(株)印刷エトリ



PTA会長 近藤 誠

## PTAを振り返って

はじめに、PTA会長という重責を一年間続けられたことは、偏に副会長を始めとする役員や保護者の皆様、校長先生を始めとする先生方に支えられ、無事務めることが出来ました。

皆様は感謝するともに、一年間ありがとうございました。思い出せば私自身、都留興讓館高校が新設された年から、PTA役員に携わり七年もた

ちました。ご存知な方は居るかと思いますが、三人の娘が都留興讓館高校にお世話になり私自身もご縁がありPTA会長を二回(三年間)も務めることが出来た事は皆様のご協力があったからと思っております。

これまでさまざまな所でPTAに携わり、またかと思われている方も多くかと思っております。開校当初から携わられた事は私自身良い経験ができ、とても楽しく過ごせました。ですが七年間手探りで活動となり皆様には色々不都合や迷惑をおかけしたのではないかと思っております。

私もこれでPTAから退場します。長い間ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度は、七月に関東高等学校PTA連合会神奈川大会にオンラインで参加し、八月に

験ができ、とても楽しく過ごせました。ですが七年間手探りで活動となり皆様には色々不都合や迷惑をおかけしたのではないかと思っております。今後は皆様方が参加し活躍されるような研修や行事を行なって欲しいと思っております。

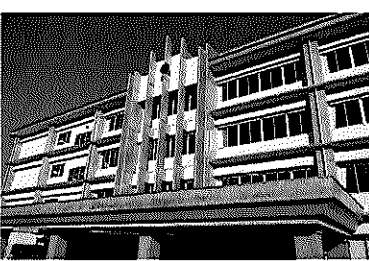
あらためまして、三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。高校生活を無事終え卒業の日を迎えられた事は卒業生の皆さんは

もより、先生方や保護者の皆様におかれましても感謝深い事と思っております。

皆さんは、これから進学、就職と自分の選んだ様々な道へ進まれる事と思っております。新しい道へ進む皆さん、これから楽しいことも多く待つという思いもありますが、辛く苦しいこともまた多いと思っております。そんな時はこの都留興讓館で学んだことを思い出して乗り越えてほしいと思っております。

この学校で過ごした皆さんなら必ず乗り越えられるでしょう。この都留興讓館で学んだことを胸に、新たな世界で力を存分に発揮し活躍され、私のところまで皆さんの活躍が聞こえてくることを期待しております。

終わりにまいります。校長先生をはじめ諸先生方、副会長をはじめPTA役員、並びに保護者の皆様には日



ごろより、PTA活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。皆様は、このおかげで、今年一年間(私にしましては七年間)無事に終えることが出来ました。あらゆること、皆様は感謝申し上げます。

今後とも、これまでと同様、PTA活動にご理解ご協力ご程、よろしくお願いたいたします。

あつという間でしたが、有意義な七年間でした。ありがとうございました。



校長 小佐野 景賀

## 試練を乗り越えて

PTA会員の皆様に平素より本校の教育活動のために御理解と御協力また御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本年度につきましては新型コロナウイルス感染症拡大三年目となりました。昨年の一月頃よりオミクロン変異株による感染が拡大し、増減を繰り返しながら未だに収束はいきません。ただ、私たちを取り巻く環境はコロナを恐れるのでは

なく、感染対策を行いながら、今までの日常に戻りつつあります。今年度も予定通り四月七日の始業式からスタートができました。五月初旬の総合体育大会では、多くの選手達が大会に参加し、相撲は団体優勝、卓球男子団体で三位、男子バレーボール三位と健闘しました。また陸上やウエイトリフティングでも多くの生徒が入賞を果たしました。七月上旬には生徒会を中心

に学園祭(興讓祭)を開催しました。昨年度は各教室でクラス毎や部活動等で撮影した映像を見ることが主だったのですが、今年度は三年は体育館でのステージ発表、二年は教室を利用しての模範店、一年は映像作品制作と学年毎に取り組みものに変えました。体育館での全校制作、クラス旗やクラスTシャツ、黒板アートなど協働して作成し、書道部、吹奏楽部、箏曲

部、合唱部は事前収録による動画発表を行いました。また美術、書道、英語、JRC、文芸、科学、写真、図書委員会、保健委員会の各展示、工業四科の展示も行われました。興讓祭では、自分たちで表現したいものを考え、昨年よりもさらに一歩前進したの企画となりました。夏の高校野球ではスタンドでの応援が可能となり、本校では三年生中心の応援団で臨みました。拍手による応援ですが、選手達に気持ちよくプレーできるように頑張りました。八月には相撲、陸上、ウエイトリフティングでインターハイ出場を果たしました。十月には二年

間開催できなかった体育祭、十一月には強歩大会の代替行事として球技大会を行いました。秋冬の部活動等では、弓道、レスリング、ウエイトリフティング、相撲で上位入賞を果たし、高校芸術文化祭でも吹奏楽、写真、テマ部門で賞をいただきました。またユネスコ主催大会での入賞や青少年読書感想文コンクールでも特選を筆頭に六名が受賞しています。工業科ではロボコン山梨、対戦型空き缶運び競技で初優勝、全国プログラミングコンテストで五位、ライントレース競技で受賞など、体育局、文化局、学科、また個人

でもめざましい活躍を遂げています。詳細は三月発行の生徒会誌を御覧いただければと思います。

本年度の三年生は都留興讓館高校第七回目の卒業生となります。入学当初からコロナウイルス感染症拡大の影響で授業、諸行事、部活動などかなりの制限を受けてきました。それでもその中で地道に努力を積み重ね、高校生活を歩んできました。このことはこれから先の人生において十分役に立ってくれるものと思っております。いくつかの試練を乗り越え、素晴らしい将来になることを願っています。

## 全国PTA連合会大会に参加して

PTA副会長 富田 隆士

二〇二二年八月二十五日と二十六日の二日間、「第七十一回全国高等学校 PTA 連合会大会」二〇二二年石川大会」に本校のPTA代表として参加しました。本年度のテーマは「輝く未来への礎」から始める新時代の教育」でした。初日は小雨が降り、開催地の皆さんの温かいお迎えを受けたが、「石川県産業展示館」に入りました。開会式、大会実行委員長栗田真氏、副委員長栗田真氏の挨拶で、「子ども達が未来を悲観的に考えるのではなく、明るい未来が待つ

と、それを活用した新しい学び「未来の教室プロジェクト」の実証事例の紹介があり、また、内閣府審議官の合田哲雄氏は、「コロナ禍の休校中、全国約半数の高校でオンライン授業が行われたことから、「AI等のICTを活用した自学自習」と、「教室での協働的な学び」の両立を目指す方法が述べられ、アフターコロナに訪れる新時代の学校教育への考えを拝聴できました。

二日目は、フアミリーマーケット顧問澤田貴司氏の実体験に基づく「やりたいことをやる」というお話を伺いました。経営統合の苦労や、組織の活性化についての熱い内容でした。

「新時代の教育とは、



まず私たち親が子どもにこうあって欲しいと願う希望の持てる未来社会へ、自らが礎となつて主体的に行動し、子どもが自立に最も責任を負う」という大会趣旨の言葉を、改めて考えさせられました。

三年ぶりにリアルで開催されたことで、他校の方との交流も貴重な体験でした。参加させていただき、ありがとうございました。

## 贈る言葉

三年生主任 山口 和重

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが入学した令和二年度は、はじめてコロナウイルスが見えなかった時期で、四月八日の入学式が五月二十五日まで延期され、生徒と職員のみでの開催となりました。その後も分散登校が続き、学校行事や生徒会行事、部活動等も大きく制限されて、これまでもその中で地道に努力を積み重ね、高校生活を歩んできました。このことはこれから先の人生において十分役に立ってくれるものと思っております。いくつかの試練を乗り越え、素晴らしい将来になることを願っています。

取得等、年間を通して常に真剣に取り組む皆さんの姿に、私自身も勇気づけられました。さて、これから皆さんが生きていく社会は、少子化や多様化、グローバル化が進み、更にSociety 5.0時代の到来により、社会が劇的に変化していく、予測困難な時代と言われています。このような時代であるからこそ、自分の人生に明確な目標を持ち、果敢に挑戦してもらいたいと思っております。

皆さんは、将来さまざまな分野で仕事をすることになります。学校と学校の違いは、社会と学校の違いは、与えられた課題に対して正解を導き出す」ことが

多いのに対して、「社会においては、自ら課題を見つけて出し、答えを探り出す」ことが中心になります。学校での正解が一つなのに、対して、社会では、予め正しい答えが準備されているわけではなく、皆さん、言い換えると、答えは定型化された単純なものではなく無数にあるのです。また、社会に山積する課題は、頭の中だけでいくら考えても答えの出ないものが多いのです。私たちは、まず頭の中を整理して答えを導き出すことが大切です。ところが、頭の中だけで考えると、すぐに難しいことやできないこと、理由が浮かんできません。そして、失敗しないかどうか、失敗した時にはどうするかなどという事を考えずしてしまいます。そのため、いつになっても失

敗を恐れて行動に移すことができません。せつ々かの機会を逃してしまふことも多々あります。何事も一度で成功することは難しいものです。ましてや、常に成功し続けることなど考えられません。逆に、失敗し続けることもありません。成功の裏には数多くの失敗がつきものです。言い換えると、今成功している人は、最も数多くの失敗をしてきた人であると言えます。よいのはないでしようか。度重なる失敗にも関わらず、それを乗り越えて挑戦し続け、成功に辿り着いた時の達成感や感動こそが自信に繋がります。人間的にも一回りも二回りも大きく成長することが出来るのです。たった一度の人生です。失敗を恐れず、何事にも果敢に挑戦してください。

第九回興譲祭

学園祭について



人生で三度あるかないかの一大イベント。それが興譲祭だ。今年で都留興譲館高校の興譲祭は九回を迎えました。

経験した興譲祭の中で一番のクオリティと賑わいでした。この三年間で一度しかなかった。

ありません。誤字では無いですが、具体的には「過去」の記憶です。

美ら海とカフェと「ちむどんどん」

石井 明

本年度、NHK連続テレビ小説「ちむどんどん」が放映された。

学習を、二日目と三日目は、貸切タクシーやバスに分乗して任意の目的地を回る。

ひとりじゃないって最強だ

宗大



十期生徒会本部が発足し最初のスタートが体育祭でした。発足してからは、短時間で。

先輩方が抜け、新生徒会本部役員が七人(当時)となり少ないなかで体育祭は三年。

私たちの修学旅行は、三泊四日の修学旅行に行きました。

私たちが二学年は、三泊四日の修学旅行に行きました。

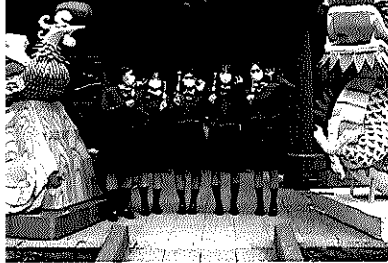
学校行事や部活動などで多くの制限を受けてきました。

協力いただきました。先生方、生徒の皆さん、生徒の皆さん、生徒の皆さん。

ここの開催で制約等があり心残りも残りますが、我々役員同士の結束力も。

私たちが二学年は、三泊四日の修学旅行に行きました。

学校行事や部活動などで多くの制限を受けてきました。



PTA新聞委員会委員長 喜多美英里

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。